

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年5月号 通巻53号 毎月1日発行 購読無料

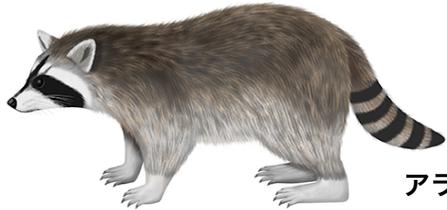
©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキの空似、アライグマ 東京都23区内でも数十頭が生息



タヌキ



アライグマ



アライグマは図のように後足で立ち上がることが普通にできる。

この東京タヌキタイムズではタヌキの他にハクビシン、アナグマも紹介してきました。もうひとつ、忘れてはいけない動物がいます。それがアライグマです。アライグマは本来は北米・中米にしか生息しない動物です。日本にいるアライグマはペットとして飼われていたものが脱走したり、捨てられたりしたものが先祖です。現在、アライグマは外来生物法によって特定外来生物に指定され、駆除の対象となっています。

タヌキとアライグマの違い

ややこしいことにアライグマとタヌキは外見が良く似ているため混同されやすい動物です。見分け方を知らない人が、夜道でちらりとしか目撃できなかつた場合にはっきりと判別ができないのも仕方ありません。

タヌキとアライグマの最も確実な見分け方は尾の模様です。アライグマはシマ模様(リング模様)があります。タヌキの尾は先端が黒っぽくなる程度ではっきりした模様はありま

せん。体の全体的な色は、タヌキは茶褐色、アライグマはグレー(灰色)です。まれにアライグマにも茶色の個体があります。目のまわりの黒い模様は、タヌキは左右でつながりませんが、アライグマはつながっています。少なくともこれらのことを覚えておけばとっさの時の判別に役立つでしょう。

もうひとつ重要なのは、アライグマは上右の図のように後足で立つことができることです。これはタヌキには不可能な姿勢です。タヌキの骨格はイヌとほぼ同じです。イヌが後脚で立つととても不安定な姿勢になりますが、タヌキも同じなのです。

アライグマ、東京を侵攻中

関東では1990年代から神奈川県鎌倉市でアライグマ被害が多発しました。アライグマはそこから南関東に分布を広げていきました。東京都23区のアライグマもそういったアライグマに由来すると推測されます。タヌキやハクビシンに比べると目撃

情報は少ないのですが、目撃数の比較から東京都23区内だけでも数十頭から100頭程度生息していると推測されます。

今現在、東京都23区では目立ったアライグマ被害はありません。数が多いハクビシンによる被害の方が問題でしょう。ですが、アライグマが数を増やすのも時間の問題かもしれません。気がついた時には手遅れだった、ということにならないよう今のうちから監視をする必要があります。東京タヌキ探検隊！はタヌキだけでなくアライグマの動向にも注目しています。タヌキ、ハクビシン、アナグマ、そしてアライグマ。私たちのすぐ隣にはいろいろな野生動物たちが暮らしているのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>